

平成16年 9月 7日

那覇市立病院 医療福祉相談室 樋口 美智子

平成16年8月30日～9月3日まで、国立保健医療科学院で、MSW 管理研修を受講した。全国から60名の参加があり、講義やロールプレイ、討論を交えた内容であった。講義内容は、MSW 部門のマネジメントが中心であり、基本的な業務管理や、教育体制について、当院でも参考にして見直しをしたい。

また、印象に残ったのは、「先端医療と生命倫理」の中で、「患者・家族にとって確立した医療とは、技術的に安全・効果的であるだけでなく、社会的・経済的にいつでも、どこでも、誰でも安心して受けられ、日常生活に復帰できることである。」「入院中でも、日常生活でも特別の配慮を必要とする患者・家族を支える医療の根幹部分の本体（真に機能するチーム医療）がしっかりしていなければ、先端医療を受け入れることはできない。」という指摘である。

インフォームドチョイスを支える真の医療チームの充実が、日常医療の場面でどのくらい機能しているかが問われていると思われた。特にがん告知や末期医療の場面でどのようにMSW がシステムとして関われるか、当院の課題としても考えていきたい。

さらに、急性期病院におけるMSW 部門の機能として、平均在院日数の短縮化への貢献があげられるが、「患者・家族が、安心して転院あるいは、退院できること」を目的に、早期に関わることがやはり基本であることを改めて認識したので、全病棟でシステムとして介入できるよう改善したい。

①マネジメントの基本：

- ・医療政策の方向性は、医療提供体制の体系型整備、平均在院日数の一層の短縮化、包括化点数による経済合理性追求である。
- ・マネジメントとは、ある目的を達成するために目標に向けて人々を動かしていくための活動。計画、組織化、動機づけ、指揮、統括、調整、変革の各段階でPDCA サイクルをまわすこと。
- ・地域連携を経営資源とし、使命感を高らかに経営戦略を策定し、守りに終始せず、質の向上に努力を。

②ソーシャルワーカー部門のマネジメント：

- ・MSW が何の目的で病院に配置されているのか、期待されている役割と機能を整理、認識すること。
- ・病院はどのような医療機関を目指しているのか、その目標にMSW は具体的にどのように貢献するのか整理すること。
- ・明確な業務内容書、マニュアル、勤務評定が必要。